政策・土木交通常任委員会資料
平成 26 年 (2014 年) 2 月 12 日
土木交通部流域政策局

一級河川鴨川およびその周辺における木材チップ等に関する河川管理用通路等の復旧作業等について

標記の復旧作業については、これまで、申し出のあった計画実行者により、作業が進められてきましたが、作業の現況および見通しなどは以下のとおりであり、現在、一日も早い撤去・搬出に向けて作業を進めています。

記

1　作業の現況および今後の見通し

（1）　敷設された木材チップの回収、袋詰め作業については、昨年１２月２４日から開始し、1月２１日にはほぼ完了した。
袋詰めが終わったものから、順次搬出が進められており、概ね７割程度が搬出されている。さらに、念のため木材チップを除去した後の通路表層土のすき取り作業を行っているところである。(平成 26 年 1 月 31 日の現況写真別添のとおり。)

（2）早期に全量撤去できるよう、引き続き計画実行者に求めていく。

（3）その後に県において土壌の放射能濃度等の検査をした上で安全を確認し、計画実行者において良質土で覆土し整地作業を実施することとしており、全ての作業が完了するのは３月初めまでかかる見通し。

2　放射能濃度等の測定

（1）　土をすき取る仕上げ作業が終了した地点において、仕上がり状況を確認するため、予備的に 3 地点の土壌の放射能濃度を測定したところ、測定結果は以下のとおりであり、放射性セシウムは検出されなかった。

放射性セシウム…単位：Bq/kg、含水率…単位：%

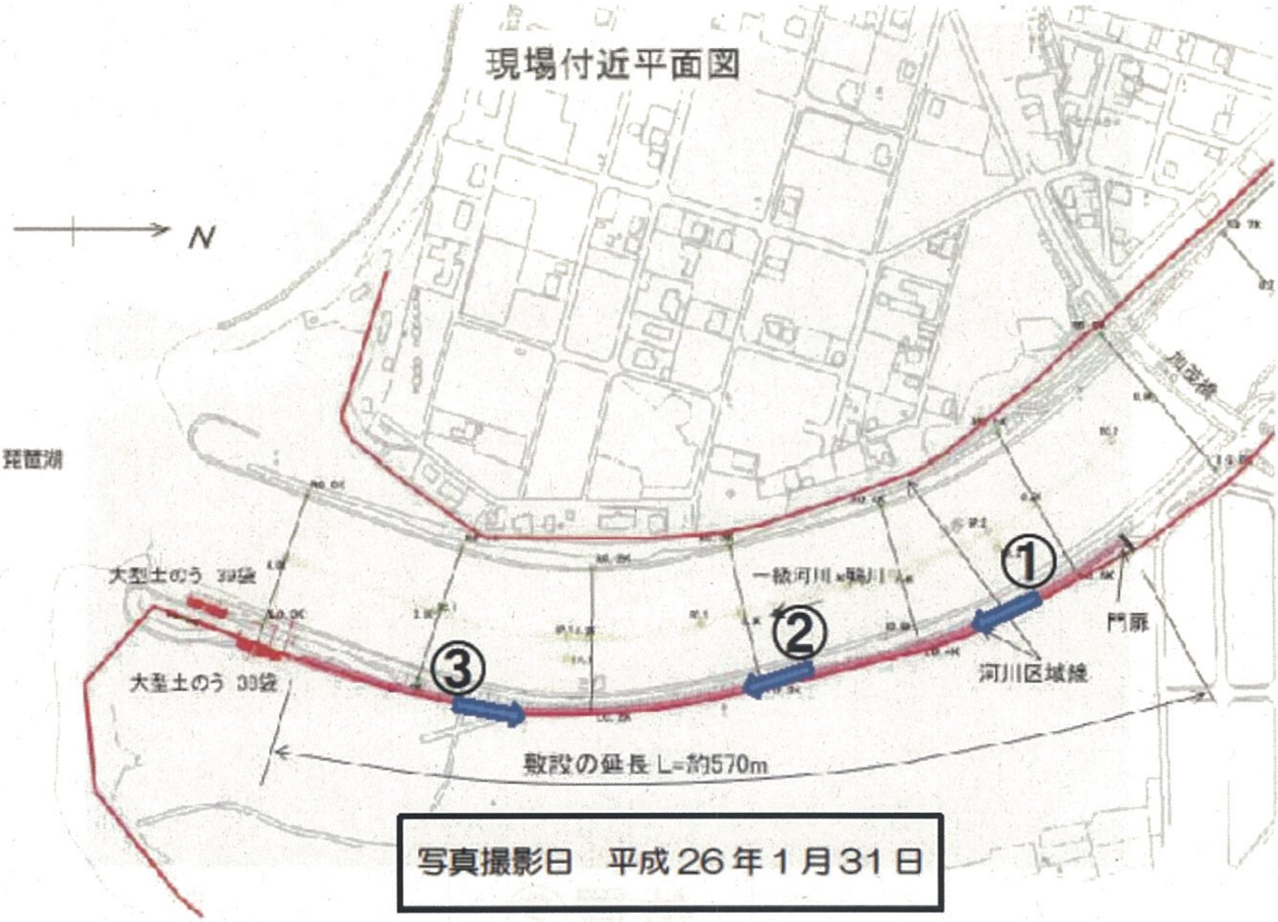
地点 (門扉より)	放射性セシウム (Cs-134＋Cs-137)	内訳		含水率
		Cs-134	Cs-137	
１００m	検出せず (<5.6)	検出せず (<2.95)	検出せず (<2.65)	8.5
２００m	検出せず (<5.0)	検出せず (<2.24)	検出せず (<2.76)	14.2
３００m	検出せず (<5.0)	検出せず (<2.39)	検出せず (<2.64)	13.6

( ) 内の数値は検出限界値

備考　①検体採取日：平成 26 年 2 月 7 日
②検査結果判明日：平成 26 年 2 月 10 日
③検査機関：滋賀県衛生科学センター
④検査方法：ゲルマニウム半導体検出器によるガンマ線スペクトロメトリーによる核種分析法

（2）撤去後は、県において、一定間隔で土壌を採取して放射能濃度を検査するとともに、さらに地元の立会いのもとで土壌を採取し検査する。また、空間線量率を測定したうえで安全を確認し、その結果を地元区の皆さんにお知らせする機会を設けるとともに公表する。

（3）復旧作業が完了後も一定期間、河川水や空間線量率等のモニタリングを行い、安全を確認する。


現場付近平面図
N
琵琶湖
大型土のう 39袋
大型土のう 39袋
①
②
③
門扉
河川区域線
敷設の延長 L=約570m
写真撮影日　平成26年1月31日

木材チップ敷設エリア

位置①

位置②

位置③